広島市東部地区連続立体交差事業の早期実現を求める意見書

広島市東部地区連続立体交差事業は、山陽本線及び呉線による海田市駅周辺地区の市街地の分断、踏切遮断による慢性的な交通渋滞、消防救急活動への支障、新たな道路計画への障害などの都市機能の阻害を解消するための事業であり、住民は大きな期待を寄せている。

平成11年に都市計画決定し、平成14年に事業認可を受け、平成27年度事業完了とした当初計画は、平成19年1月に変更された。この完成時期を7年延長し、その後については平成24年度に工事協定を行い、平成25年度から工事に着手し、平成34年度に事業を完了する計画であったが、平成24年2月に広島県と広島市は、府中町、広島市東部、海田町を通る山陽本線と呉線の計6.3Kmを高架化する設計費を、平成24年度当初予算に盛り込まないことを明らかにした。

この決定を受け、本町議会では平成24年3月議会において議決した当該事業の整備促進を求める意見書を県と市に提出した。

しかしながら、平成24年10月10日の新聞報道によると、県と市は高架区間の短縮を検討しており、海田町長に事業をしない場合のまちづくりについての町の意見を聴取し、理解を求めたとある。

海田町域において、鉄道を高架化し都市交通の円滑化を図ることは、市街地の一体化と健全なまちづくりに寄与することから、1日も早く完成させることが必要であり、住民が長年にわたり願っていたことである。したがって、このたび示された内容については、住民の代表である議会としても、到底、承服できないものである。

よって、広島市東部地区連続立体交差事業を平成34年度まで計画通り進めるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成24年10月12日

海 田 町 議 会